

## 青果ネットカタログ情報

### さくらんぼ買うなら見よう電子カタログ

#### 1, さくらんぼ生産者がseicaへ集結

インターネット上に野菜と果実を対象に、電子公開カタログseicaが公開され、生産者などの無料登録、流通業者などの無料利用が始まったのが昨年8月23日であるが、多数の関係者のご努力により、1年を待たずして総登録数は800件を超えた。登録の勢いは、トータルでは分かり難いので、丁度、収穫期を迎えたさくらんぼ(おうとう)で見ると、第1号の山形県成生・土づくり研究会他1団体の登録があったのが4月25日で、その後登録が続き、1か月半の本日(6月13日)現在、18の出荷者団体(山形県17団体、北海道1団体)のカタログが登録されている。18の出荷団体の市場全体に占めるシェアがどの程度なのか定かではないが、相当のウエイトを占めるのではないかと推察される。

さくらんぼ、とりわけ国産のさくらんぼは、高級果実の代表で、多くが贈答用の果物として購入される。従って、味覚の良さ、高鮮度、品傷みの防止、配達時間や配達方法の良否などに関する行き届いた気配りが不可欠な商品で、商品に対する十分な事前確認が死命を制すると言っても過言ではなからう。だが、収穫期が僅か1月間と極端に短いさくらんぼについて数ある産地の生産物を入念にチェックするのは容易ではなく、勢い長く続いた取引先を信用して継続仕入れをすとか、市場に出荷された段階で商品を確認して相応の値付けをしてきたのでは無からうか。

さくらんぼについても内外の産地間競争は厳しく、生産流通対策も日進月歩である。しかし、前述のように十分な時間を掛け、個別の産地毎に商品確認するのは困難であった。かかる観点からすれば、18の産地の商品について出荷日より相当以前に商品特性などをインターネット上で十分な時間を掛け、多面的にチェックできる場が整ったことは、大げさではあるが、「さくらんぼ生産者がseicaへ集結」と書いても過言ではなく、「さくらんぼを買うなら見よう電子カタログ」と言いたくなる。

#### 2, さくらんぼのカタログには何が書いてあるか

さくらんぼの第1号登録のカタログを見ながら説明する。カタログの情報には、生産物情報、生産者情報、出荷情報の3種の情報群がある。

##### 生産物情報

この情報群には、品目、品種名、コード、栽培面積、栽培方法と特徴、認証の名称、堆肥などの予定資材、土づくりの留意点・特徴、病害虫防除(使用回数と補足説明、使用薬剤)、作業計画(収穫開始日、収穫終了日)、鮮度保持対策、安全衛生対策などが記入されており、品質を判断しうる多様な情報が開示されている。

##### 生産者情報

この情報群には、生産者名、所属組織、郵便番号・住所、総耕地面積、作っている作物、農業従事者数、生産者の自己紹介などが開示されており、取引相手として選ぶにたりるか否かのイメージが描ける。

## 出荷情報

この情報群には、組織の種類、出荷者の名称・代表者、販売担当者、所属生産者数、住所、電話、FAX、出荷計画などが開示されており、取引の交渉、手続きなどの情報が網羅されている。

カタログの記入内容は、必須項目と任意項目とに分かれており、必須項目は選択肢を選択することにより、全項目記入され、任意項目は自由記入方式なので、内容に精粗があるが、傾向としては充実の方向にあり、こだわりを判断するのに十分な情報が開示されている。

## 3、カタログはどんなメリットを生むのか

電子公開カタログによる情報開示には、時間と空間の壁を超えるITの技術特性により、広域に分散立地する多数の産地の多様なこだわり情報を居ながらにして十分時間を掛け、繰り返し比較閲覧できるメリットがあるが、さくらんぼのような高価で、鮮度の確保、品質の保持が難しい商品については、最良の商品を調達、提供できる「新しい流通」を展開するチャンスが内包されている。

カタログに記入されたこだわり情報は、「生産者提案のこだわり情報」であって、究極的なこだわり情報ではない。例えば、さくらんぼの配送は、最短距離で、時間を掛けず、最適温度で、品傷みしない方法で、消費者に届けたい。つまり具体的な届け先を前提にオーダーメイドの配送方法が選択されるべきで、こうした方法を売り手と買い手の間で取り決められるメリットが多様化時代では大変重要なメリットになりうるのではないか。こうしたオーダーメイドの生産、流通方法の展開局面はさくらんぼに限ったことではなく、さくらんぼのように多数の生産者がカタログ登録をして頂ければ、国産農産物供給の展開方法も無限に開けるので、カタログを活用して食品全体について新しい商品作りの可能性を大いに工夫し、取り入れるべきではないか。